

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・写真 後藤
山行番 NO. 1932	
日時 2021年7月16日(金) 晴れ・風涼しい	
山域 白砂山(日本二百名山・2139m)	
コース 野反湖駐車場4:39-八間山登山口4:59-八間山6:04-堂岩山分岐7:58-白砂山9:16~56-堂岩山分岐11:10-地蔵山-ハンノ木沢-野反湖駐車場13:26-草津温泉	
標高差 上り・下り 野反湖駐車場約1525m~白砂山2139m=約609m (ただし、上り返し多く長い)	
快適度 5(5段階評価) 藪なし	
難易度 非常に困難 困難 レやや困難 普通 やや易しい 易しい	
<b>とかく、トラブルは、続くもの・・・</b>	
参加者 後藤、合谷=2名	

山行にあたって、「絶対忘れものをしない」が鉄則。いつも気を付けているが、昔、登山靴を忘れ、御殿場から戻ったことがある。仲間も忘れたことがあり、「長靴」で上ったことがあった。少々ものでは問題ないが、大物はそうはいかない・・・。

今回は、男2名なので、蚊取り線香・ひげ剃り・ライター・包丁など念には念を入れたはず。往路は関越で行くので、相方の裾野まで車で向かった。参加が二人なので、経費が掛からない、プリウス・プラグで行くことにした。車は、ガソリン1リッター=25km走るといふ。モータを併用している車である。



野反湖・堂岩山登山口



八間山登山口

### トラブル・その1

裾野に着き、荷物を乗せ換えている時、何と「ザックが無かった」ガビ～ン！！座敷に置いたままだった。長泉まで取りに戻る。これで約1時間半のロス。結果、初日予定だった、本白根山に上れず、相方には申し訳なかった。

一度あることは、二度・三度とあるのが世の常。これが、今回の「トラブル・ショー」の始まりだった。関越から長野原～草津温泉～本白根は遠かった。ランチを横手山レストランで頂く予定が、大幅に遅れてしまった。

ランチ締め切りの14:30まで間に合わせるべく、「のぞき」から標高差200mを上る。ただ、私は「高を括って」サンダル履きで上ったので、急登に悪戦苦闘だった。レストランの女将は、「えええ～、サンダルで上って来た」と驚いていた。



「のぞき」横手山登山口



横手山



ハクサンチドリ



クロユリ

レストランまでは、渋峠からリフトが5分くらいで上っている。しかし、料金が何と片道＝1200円。往復＝2400円という。これでは馬鹿らしく乗る人はいないと思いきや結構、乗っている。しかし、途中で会ったご夫婦は、余りに高いで、「歩いて下っています」と言った。

レストランの回りは、大型の黄色い花・黒百合が咲いていた。聞けば、黄色い花は「シナノキンバイ」というが、何か背丈が大きすぎて、ピンと来なかった。何でも、「コーヒー漬で育ちすぎ」というが・・・。

レストランで遅いランチ。ビーフシチューがお勧めらしいが、知らなくてボルシチとビアを注文。ボルシチは、やや薄味だったが美味しかった。自家製のパンが付いていた。ビアも美味かった。女将に見送られて下山。女将は一年中、ここに居るといった。今度は、スキーで来ますと挨拶。野反湖（のぞりこ）に移動する。サンダルでは、「のぞき」への急坂は下れないので、私だけスキー場

を渋峠に下る。車は相方に頼んだ。スキー場は、傾斜が緩く楽だった。しかし、5～6分のリフトが、1200ーとは改めて高いと思った。



ボルシチ



女将

野反湖まで遠かった。20 kmくらいあるか。グーグルで見たら41 kmあった。初めての、弁天山峠から俯瞰する湖は素晴らしかった。色がキレイで周りが、花崗岩みたいな白で青空に映える。辺りの草原は、ニッコウキスゲが満開だった。湖は、自然湖かと思ったら、人工湖だった。



野反湖

## トラブル・その2

キャンプ場の受付に行く。今夜はバンガロー泊り。一棟＝7150円。一応、4名用だが、4名ではやや狭い。シャワーが完備。10分＝200円。有り難い。しかし、ここで、第二のトラブルだった。何と「予約は受けていません」だった。

メールは3回貰い、バンガローも「NO. 3」と連絡が来たのに。旦那が黒人の新婚3ヶ月のアルバイトの女子は、「予約受付とここは別で何故か分からない」と、こちらが分からないことをいう。一体、この情報管理はどうなっている??!!

怒っても仕方がないので、「兎に角、バンガローは空いているか」と正せば、何故かNO. 3は空いていた??。すぐ掃除をして貰い一件落着。油断も隙もあったモノではない。以下、メール。

On 2021/07/15 11:11, 後藤隆徳 wrote:明日、バンガロー1棟、2名、よろしくお願ひ致します。  
静岡県駿東郡長泉町下土狩1541-12 後藤隆徳

後藤 隆徳様

野反湖キャンプ場のご予約ありがとうございます。以下のご予約内容をご確認ください。

到着日: 2021 7月 15日 (チェックイン After 13:00 時)

出発日: 2021 7月 16日 (チェックアウト Before 10:00 時)

メールをよく見た。私が宿泊を依頼したのは、7/15で「明日」と送った。つまり16日をお願いした。ところが、何故か返事は、「16日」でなく「15日」だった。これが予約を取れなかった原因。私も忙しく良くチェックしなかった。それと、予約日は、「明日」でなく、「16日」にすべきだった。大いに反省。



バンガロー

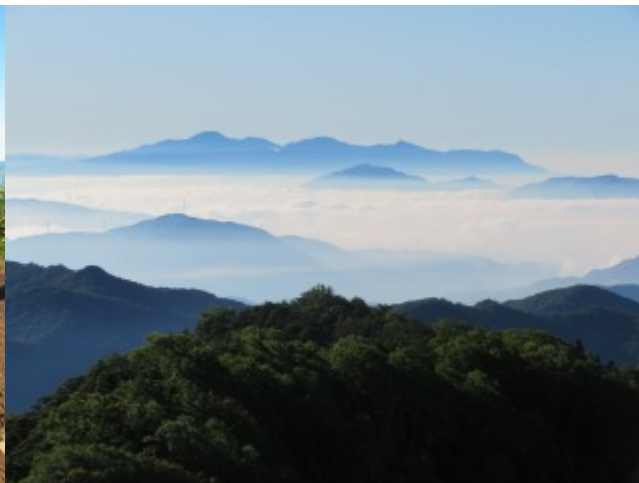
炊事場で夕食。イイ風が渡る。ビア・ワイン・熱燗をやる。途中で先ほどの受付嬢が帰る所だった。前述の黒人の方も一緒だった。そこで、新婚3ヶ月ということが分かった。旦那はアフリカの方だったが、この先、生活は大丈夫だろうか??

バンガローは、蚊がいる情報だったが、いなかった。涼しくて寝やすかった。テレビはないので、早めに休む。周りも、実に静かだった。

翌朝、野反湖入り口の駐車場に移動し、道路を20分程歩いて、八間山登山道着。ここから登山開始。八間山までは、もう一つ弁天山の峠から上るコースがある。標高差は変わらない。ただ、こちらから往復は辛いだらう。出来れば周遊がイイ。しかし、結果的に周遊の地藏山経由も長く、上り返しが厳しかった。いずれにしても、白砂山は大変な山だ。



八間山



朝の風景



白砂山は遠い



八間山に着く。ようやく展望が広がった。快晴でイイ風が吹き涼しい。見事な雲海が広がっていた。弁天山方面から2名上って来た。ピストンの様だ。八間山から堂岩山分岐まで上り下りが多い。日差しが強くなり暑い。背後に富士山が確認できた。アキアカネが沢山飛んでいた。期待の花は少なかった。笹が凄い。そう言えば昨日、キャンプ場で「ニッコウキスゲ」が凄かったが、聞けば「鹿の食害」は無という。考えてみれば、これだけ笹が生い茂っていたら、鹿は生息不可能だらう。余りの笹で、高山植物が守られている、と言っても過言でない。堂岩山分岐で、ようやく白砂山が大きくなった。道標に2kmとあった。約1時間というところか。ただ、ここからが曲者だった。上ったり下ったり、なかなか歩は進まない。上り始めて3時間ちょいだから、それ程疲れてはいないはずだが、体は重かった。単純の一本上りと上り下りが多いのでは、やっぱり疲労感に相違があるのだろうか。それでもようやく最後の上りに掛かった。この辺りは、花が少し良かった。バイケイソウが目立ち、クルマユリも咲いていた。ニッコウキスゲもチラホラ。急登をこなし、ようやく頂上着。地藏山経由の方が何人かいた。



白砂山



バイケイソウ



クルマユリ

約4時間半掛かった。標高差の割に厳しい山だった。展望は素晴らしい。ただ、余り入らない山域なので同定は難しい。白根山・浅間山・上州武尊山・尾瀬方面、などなど。大休止。ビア2本が美味かった。畑のキュウリ・エダマメがイイ。オムスビも1ヶ食べた。それにしても続々と上って来る。地味な山と思いきや、そんなに人気があるのか。埼玉から来たオヤジと会話。マラソンをやっていたが、心筋梗塞で登山を始めたという。発作が慶応病院の前で一命を取り留めたという。我々とは逆で、八間山経由で帰るといった。

小1時間で下山。元気が回復した。頂上の少し東に3県界があると、皆さんは往復していた。



## 頂上

要するに甲武信岳と同じで、群馬（上州）・長野（信州）・新潟（越後）の上信越（山・岳）って所か。白砂山がそうであれば良かったのに。

下山開始。上って来る来る。その数、50名は下らない。しかし、炎天下、バテバテの方も多かった。この時期、早朝登山でなければ厳しい。こんな地味系の山にどうしてだろう??

やっと、堂岩山に戻り、地蔵山を目指す。だが、ここも下山にも関わらず、上り返しが多かった。泣きが入る所だった。極めつけは、ハンノ木沢に急下降。これでお終いと思いきや、最後の上り返しがまたあった。このようなコースは、いただけない。再登はもう考えられない。汗だくで駐車場着。観光客が多かった。ニッコウキスゲが咲き乱れる草原と美しい湖は、人気があるようだ。草津温泉に戻り宿泊。宿は「湯畑」のすぐ近く。温泉は、流石に素晴らしかった。

## トラブル・その3

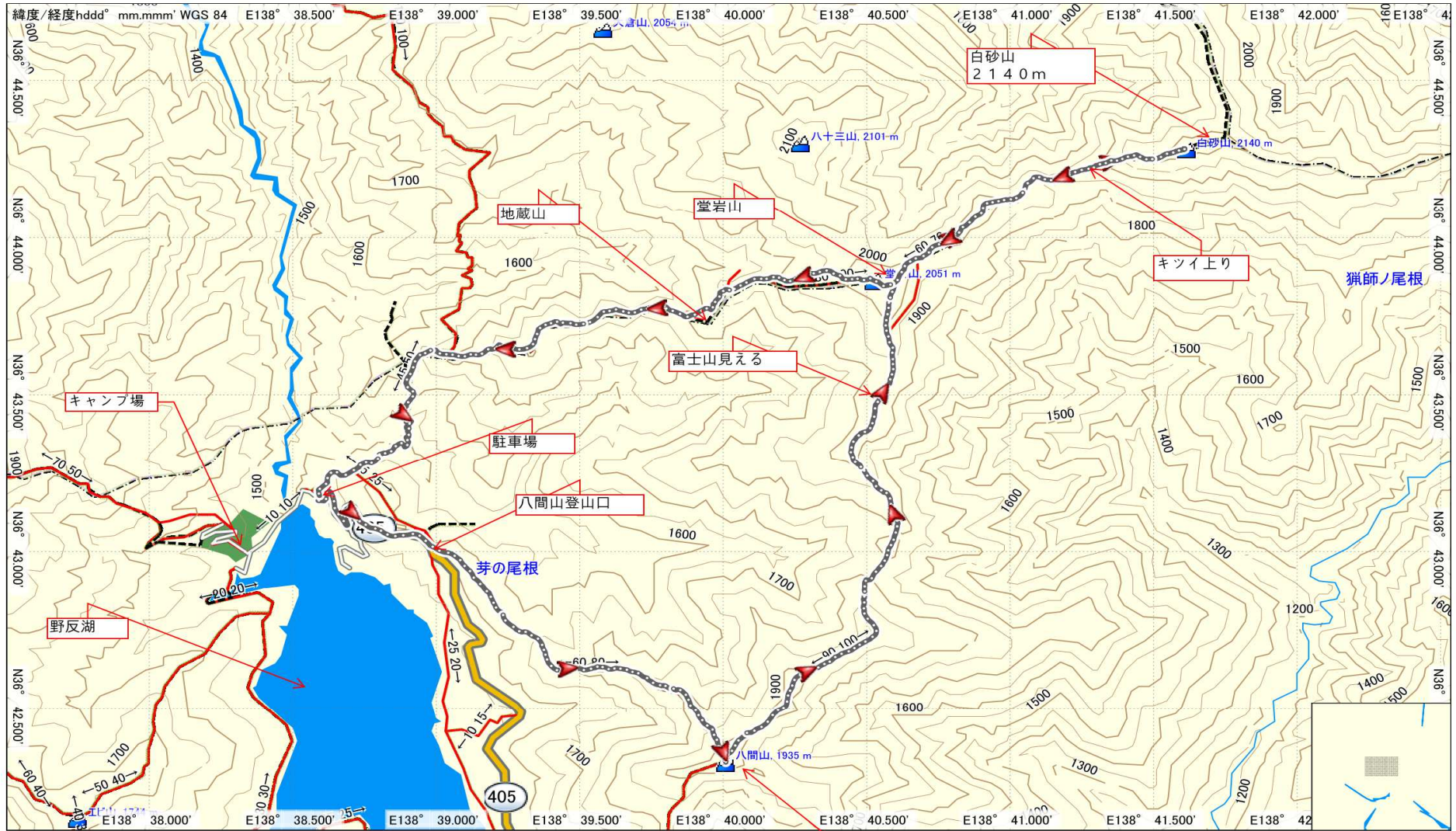
朝湯も堪能し帰静。トラブルも2件でヤレヤレとかと思った。河口湖で昼が過ぎたので、いつも通過する道路の脇、船津地区のソバ屋「とも花」に入った。店構えは素晴らしい。

趣向を凝らした、広大な敷地に洒落た建屋。店に入った。70過ぎのオヤジが出て来る。「呼ばれるまで外で待て」と高圧的。呼ばれて奥の暗い席を指定された。待っている間、窓際の眺めがイイ座席の客が帰ったので、席替えを希望したら、オヤジが切れた。

「俺の指示に従え」「文句があるか」「俺は一人でやっているんだ」「事故（意味不明）があったらどうする」「帰れ」「お前らに食わせるソバはない」・・・。宥めても無理だった。この手の輩は何を言ってもダメだ。「分かりました。帰ります」ただ、「帰ったらネットに上げる」と言ったら、「俺を脅迫する気か」「言葉に気をつけろ」と物凄い剣幕。私は「事実を伝えるだけ」と返した。帰ってこの店の評判をネットで見ると驚いた。罵詈雑言の雨嵐だった。

以前、山の帰りに御坂のキノコ屋に寄った。バアさんが対応。ジイさんは奥の椅子に鎮座。数々のキノコがあるので、名前など聞いた。しかし、全体的に古いので店を辞そうかと外に出たら、やおらジイさんが出てきて、「お前らキノコの学習などしてタダで帰るのか」「月謝を払っていけ」と相当の剣幕。車に石でも投げられそうな雰囲気だった。

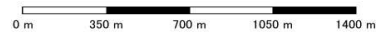
どうも、「山梨県人と静岡県人は合わないのだろうか？」昔は貧乏県で一割自治など揶揄された時代もある。意味は様々だが「甲州人と牛の糞は気をつけろ」なども言われる。ま、いろいろあるだろうが、隣の県同士、仲良くやって行きたいものである。



Japan Topo 10M Plus V3  
 CanvasMaple Co., Ltd 2014  
 Garmin Corporation 1995-2014

2021/07/24 10:27:09

展望良い



GARMIN

